



TITLE:

# 中小工業と創造信用

AUTHOR(S):

田杉, 競

---

CITATION:

田杉, 競. 中小工業と創造信用. 経済論叢 1942, 55(3): 363-369

ISSUE DATE:

1942-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/131708>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 經 濟 論 叢

第五十五卷 第三號

昭和十七年九月

## 論 叢

北支の金納小作制度

經濟學博士 八木芳之助

松方正義公の經濟政策論

經濟學士 堀江保藏

支那證券市場の性格

經濟學士 徳永清行

呂祖謙の貨幣思想

經濟學士 穂積文雄

## 研 究

近世絹織業の市場構造

經濟學士 堀江英一

支那に於ける開墾問題

經濟學士 山崎武雄

## 說 苑

中小工業と創造信用

經濟學士 田 競

## 附 錄

彙 報

## 説苑

### 中小工業と創造信用

田 杉 競

一  
中小工業は經濟の發展過程において、或る場合には大工業と補充關係に立ちつゝも、他の場合にはこれと競争關係にあり、絶えざる變動の間に漸次にその存立の分野を狭められてゆく。<sup>1)</sup>長期間をとつて見れば、機械化生産の進行、一般的にいへば所謂資本の有機的構成の高度化しゆく趨勢に伴ひ、大工業の分野が絶對的にも相對的にも増大し、つあることは、敢へて今日の如き戰時といはず、平戰時を通じて同様である。この趨勢は根本的には資本の蓄積と技術の進歩との兩面から容易に説明されるところであり、また中小工業者一般の非進歩的態度にも起因するが、更には金融組織及

び信用貨幣の本質からも助長される。蓋し今日の金融組織によつて創造される信用が景氣變動に極めて大なる働きを及ぼすことは周知の如くであり、この作用は中小工業に對して比較的微弱かつ間接的なりと考へられ、しかもまたかゝる景氣變動を通じて長期的結果を齎すからである。

貨幣的景氣論は一般に景氣變動において貨幣的要因を重視し、特に創造信用の演ずる作用を問題の中心とする。今日のわが國民經濟は政府支出に基くインフレーションの顯著なる影響下にあり、インフレーション的信用擴張の影響は經濟全般に及んでゐる。中小工業もまた生産の面においてのみならず、金融の面においてこの影響をうけることは言ふまでもなく、中小工業金融はやゝ特異な様相を呈してゐる。具體的事實の記述は他の機會に譲り、<sup>2)</sup>こゝには主として信用擴張が中小工業の生産に如何に作用するかを演繹的に考察したい。

1) 拙著、下附制工業論、第一章、第二章。  
2) 拙稿、統制組織と問屋金融（本誌、昭和15年9月號）、事業下の中小工業と金融（同、昭和17年2月號）等。

貨幣的景氣論には凡そ二つの型がある。<sup>3)</sup> 一は貨幣數量に重きを置く學說であり、他は利子歩合に重きを置く學說である。

貨幣數量に重きをおく學說は、準備率の考慮から出發し、金利の變動によつて信用量の變動が起り、信用量の變動をまつて物價が變動すると考へる。これは或る意味において古い型の理論とされる。

新らしき貨幣的景氣論は、貨幣の供給における弾力性に着眼し、利子歩合の開きから出發してウィクセル的累積過程を説くものである。何等かの事情によつて自然利子よりも貨幣利子（金利）が低くなるとき、信用擴張に先立つて資本財價格の騰貴があると考へる。

こゝに注意すべきは、何れの學說も銀行の信用擴張を重視し、殊に前者は信用數量の増加が一般的物價騰貴を招くとする點において、信用貨幣の能動的作用を認め、屢々銀行の態度をも積極的なりとする。然るに後者は銀行及び創造信用の作用につきより、受動的と考へ、資本財價格の騰貴、資本財生産の見込における利

潤増加によつて信用擴張が行はれるとする。

擴張された信用は如何なる部門に多く與へられるか。後の學說は資本財生産部門に多いことを明瞭に説くが、前者は如何であらうか。金利の低下すなはち生産費の節約なりとすれば、何れの部門を問はず需要される筈であるが、若し生産要素がすべて利用されてゐる場合には強制節約によりまづ消費財部門が抑壓されるのみならず、今日の資本集約的生産方法よりして資本財の生産擴張に多くが向けられると考へてよい。しかも、たとひ最初は短期資金、即ち投機資金又は經營資金として與へられたとしても、後述する如く之によつて成立する資本支配力 (Capitalisposition)<sup>4)</sup> 乃至購買力はやがて固定的投資にも利用せられるに至るからである。

かくて第一に強制節約がありとすれば消費財産業が抑へられる。中小工業が消費財産業に屬するもの多しとすれば、この點から中小工業は不利を蒙るものといはねばならぬ。我國の最近の事實についてはしかしか

3) 高田保馬、第二經濟學概論、371頁以下。  
4) 信用の擴張又は利子の低位のみから生産擴張が行はれ難いといふのが、貨幣的景氣論に對する最大の非難である。例へば高田保馬、經濟學新講、第五卷、460頁。

る影響と認むべきものを見出し難いやうに思はれ、むしろ生産要素が中小工業を去つて大工業へ向つたのは統制の結果と見るべきであらう。事變以來既にはやく購買力増加がひろく浸潤したからである。

第二に擴張されたる信用は、直接その企業に與へられると、間接に他の企業を通じて利用されるとを問はず、資本財産の生産擴張に多く投ぜられるとすれば資本財の生産において中小工業の占むる地位が一般に極めて小さい事實から、やはり創造信用は主として大工業に對して作用するものと考へられる。

しかし創造せられたる信用は、具體的に如何に與へられ、如何に作用するか、いまだしく詳細に考察する必要がある。

### 三

銀行は受けたる信用、即ち本原的預金よりも多くの信用を與へ得る。けれどもこゝに行はれた信用創造が常に直ちにインフレーションを惹起するとは限らない。之に對應する生産の増加が同時にあるひは近き將

來に實現すれば、物價騰貴は全く起らずあるひはやがて消滅するからである。従つてインフレーション的信用擴張なりや否やは、その成立が生産の増加に隨伴せるや否やによつて判斷される<sup>5)</sup>。この見方から手形割引または商品擔保貸付は既存の財を基礎としてゐる限りかゝる信用擴張でないに反し、例へば擴張のため發行せられたる株式社債を擔保とせる貸付の如きは明らかに生産に先立つて供給され、従つてインフレーション的創造信用とされる。また最近軍需品生産に關して行はれてゐる註文書見返の貸付<sup>7)</sup>、或は經常的取引關係(特に獨逸大銀行の *Kontokorrentgeschäft*)<sup>8)</sup>に基いて内容を知悉せるのち對人信用によつて融通されるものも之に屬する。然し何れにせよ、信用擴張が生産の擴張を招くことは疑ひない。

シムペーターによれば、經營信用は財貨の流通を背後にもつが故に、彼の立場から所謂「新らしき結合」を行ふ企業が生産要素を他の部門より移動して「發展的生産擴張を實現するには役立たない」<sup>9)</sup>。この目的のた

5) Cassel の用語をかりて (Theoretische Sozialökonomie, 4. Aufl. S. 184) *Marchup* は實物資本の調達に用ひ得る支配力—通常は貨幣資本を意味する—の意に用ひる。(Börsenkredit, Industriekredit u. Kapitalbildung, S. 10-20.)  
6) Hahn, A., Volkswirtschaftliche Theorie des Bankkredits, 3. Aufl. S. 40-44.

めには對人信用又は有價證券擔保など（即ち現在所有せる財産、又は將來の用役や將來生産せらるべき財貨を擔保とする）によつて融通される創造信用が必要である。中小工業が多く受けてゐる信用は經營信用に止まり、設備資金、擴張資金においては主として自己蓄積、親戚知人並びに問屋よりの融通に依存し、僅かに一部を銀行に求めるに過ぎざることを見れば、一般に十分なる創造信用を受け得ないであらう。

「新らしき結合」とは非連續的な「發展」を招來する如き劃期的生産方法を意味し、容易に出現するものではない。それにも種々の段階があるとはいへ、中小工業者の經營態度を見れば、一般に之を實現する企業者の機能は大工業者に劣ると見ねばならないであらう。<sup>10)</sup>たゞかゝる方法に極めて速やかに追隨することもその一つであるとすれば、例へば今日の軍需生産のあるものゝ如きはこの範疇に屬するであらう。現に軍需生産部門に於ては統制の線に沿うて、大工業が十分なる信用をうけ大擴張を行つてゐるは勿論ながら、中小規模

のものもこゝでは多少の創造信用を供與されてゐると見られる。<sup>11)</sup>

以上是個々の貸付割引の何處に於て信用創造が與へられたかを見たのであるが、創造信用に關する研究は個々の銀行における觀點から銀行全體に對する觀點に移り、そこに信用創造の有無あるひはその作用を論ずることゝなつた。即ち一々の貸付割引が直接に物價又は生産の變動を惹起する過程を見るよりも、社會全體における信用創造の影響を考察する。利子歩合に重きを置く學說の如きも、自然利子と金利との開きから信用擴張が行はれるとするとき、どの貸付が信用擴張となるかを問はない。たゞ資本財價格、ひいて見込の利潤が高まるのは資本財産なりと見る限り、この部門へ多くの信用が與へられることを説くのであつて、それが如何なる形式で與へられるやを問はない。かくてこの見解をとる場合にも中小工業に資本財産たるものが少い關係から、多くかゝる信用擴張に浴しない。

茲でまた今日の金融市場には或る程度の分化が行は

116-117.

7) 小島昌太郎、金融論、640頁等。

8) 拙稿、獨逸貨幣主義銀行における交互計算業務（本誌、昭和12年2月號）。

9) Schumpeter, J., Theorie der wirtschaftlichen Entwicklung, 2 Aufl. S. 146,

れ、中小工業は一部を除き大工業と異なる金融機關から資金を仰ぎ、こゝに不完全競争の市場が成立してゐる事實を考へねばならぬ。兩市場間に或る程度の資金の移動はあるけれども、中小工業の支拂ふ金利（及び之に附隨する諸條件）も大工業のそれに比して高く、低下傾向にも遅れがある。若し中小工業金融市場が大工業金融市場と完全に分離してゐるならば、そこに於ける自然利子（相對的に高くない）と金利（比較的高く低下傾向に置く）との開きが小なるがため、中小工業に於ける資本財價格の騰貴は大工業におけるよりも少い筈である。然りとすればウィクセル的累積過程はこゝでは微細なのではないか。たゞこれら市場の分化は完全でなく、殊に景氣上昇期には後者より前者への流入が盛となるから、果して如何なる程度の差異を示すかは明瞭でない。けれども現實は中小工業に對して創造信用が與へられることは少く、殊に各種の統制がこれを促進してゐることは疑ひ難い。

#### 四

#### 中小工業と創造信用

信用創造を金融市場の全體について觀察しその生産への關係を見る場合、シュムペーターの如くその景氣上昇への Ignition を問題とするに非る限り、他の考察を必要とする。信用擴張はそれが何處に如何なる形式で與へられるにせよ、明らかにまづ受信者に資本支配力（購買力）を加へたものではあるが、これは舊債の償還證券の買入、生産手段の調達などに用ひられると同時に、自己又は相手方に自由なる購買力となつて移轉する。順次かゝる過程は繰返されるから、創造されたる信用、即ち資本支配力は最初の受信者に作用するのみならず、ひろく國民經濟に波及してその生産増加を齎すであらう。マハルツはボラツクの思想に基いてこの過程を重視し、取引所信用が資金を拘束して工業信用を阻害するや否やを論じてゐるが、この考へ方はまた我々の問題に役立つと思はれる。かくて波及過程の全體を見るとき、創造信用のインフレーション的作用は、それが最初どこに（取引所信用、工業信用）、如何なる形式で（手形割引、當座貸越、證券擔保貸付）如何なる使途

151. (邦譯、248、255—256頁)。

拙著、下請制工業論、283頁等。

10) 軍需品の受託の際與へられる前渡金も同様の作用をもつ。  
11) 例へば岡庭厚、戦時下の中小商工業金融論、53頁以下の諸統計によつて、中

12)

に對して(經營資本、設備資本)與へられるを問はず、同様であるといふ。<sup>15)</sup>それは結局迂回生産の延長、即ち資本財生産の擴張に投ぜられるとする。確かに創造信用が最初の受信者に與へる作用は注目せられねばならないが、同時に創造せられた資本支配力が全體の生産に及ぼす作用もまた重要である。かゝる見方よりすれば創造信用の中小工業への作用は如何であらうか。

需要増加が資本財生産の擴張をより強く刺激すること(加速度の法則)及び資本の供給増加とともに之を受くべき資本の限界需要者は、資本的生産を行ひ利子低下の利益を強く享受するものであることから、結局、資本財産業へ最も多くの創造信用が流入するとするマハルップの説は正しいであらう。もし然りとすれば中小工業はまたその影響をうけることが少いわけである。

然し乍ら創造せられたる信用は社會の所得を増大するのみならず、前記過程の結果として消費財の缺乏を感ぜしめるに至るが故に、やがて消費財の價格騰貴を齎らし、その生産を刺激することとなる。たとひ、ハ

イエクの如く、かゝる消費財需要の増加を以て強制節約の反動とし、またこれがため、消費信用の直接的増加と同様に迂回生産の短縮、ひいては恐慌に導くと見ることをせずとも、所得増加が消費財生産を刺激することとは疑ひないであらう。

殊にかゝる波及過程においては、それが生産に投ぜられ分配過程を経て、やがて所得の一部として貯蓄を形成する。この自己蓄積(及び親戚知人の蓄積)を生産を利用するに至りて中小工業は擴張を行ふことが出来る。こゝでまた問屋よりの金融が加はる。たゞ今日の狀態はかゝる蓄積が平和産業の一般的なる、又軍需産業の中小工業における設備制限といふ統制によつて抑へられて、僅かに運轉資金の充實——問屋金融の排除——となつてのみ現はれてゐる。<sup>16)</sup>今日わが中小工業の金融は主としてこの所得及び蓄積増大といふインフレーションの間接的影響の下に特殊の様相を示してゐるものである。

## 五

小工業の利用せる金融機關を見よ。

- 13) Machlup, a. a. O. 特に S. 40, 179 ff Polak, N. J., Grundzüge der Finanzierung, S. 43 ff.
- 14) 然し彼が創造信用をすべて inflationistisch とするのは正しくないであらう。



今日の金融市場においては銀行により信用創造が行はれてゐることも事實であるが、最も顯著なるはいふまでもなく、國家の日本銀行を通ずるそれである。日銀引受による公債發行は、生産増加に先立つて資金——資本支配力を創出してゐるから、それが軍需生産物の調達を齎したるのち、生産増加に應ずる以上は速やかに回収されなければインフレーションを招く。上記何れの觀點をとるにしても創造されたる信用は資本財産業、從つて多くは中小工業以外の生産を増加せしめる筈であるが、事實莫大なる政府支出は直ちに回収されずして一部流通界に止まり、主として物價騰貴と大工業の生産擴張に働いてゐる。

勿論、資金統制はじめ各種の統制が中小工業を抑壓するからこの勢は一層顯著となる。然しこの事實は單なる統制の結果ではなく、上に考察した一般的傾向の現はれであると考へられる。またそれは、銀行もしくは信用貨幣自身の性格よりも、根本的に今日の生産構造の特質から決まることも注意されねばならぬ。銀行

自身が發展においてイニシアティヴをとらないといふ態度に終始する限り、かゝる統制及び一般的傾向において不利を蒙るべき部門には十分なる信用が與へられる筈がない。<sup>21)</sup>

中小工業者のうちに優秀なる企業者の才能を有するものがあれば、十分なる信用を與へられて、速やかな成長を遂げることも可能であらう。事實、新らしき可能性を見透して早く擴張に着手した一群の中工業者は、特に軍需産業において著しき發展を遂げた例に乏しくない。然し一般には中小工業者にかゝる才能が乏しいとき、金融業者の態度と相俟つて一般的結論は動かないであらう。

- 15) Machlup, a. a. O. S. 184—189. 16) a. a. O. S. 182—184.  
17) Hayek, F. A., Prices and Production, 2nd ed. p. 55—58. (豐崎稔譯 96—100頁)  
18) Ibid. p. 58, 89—96. (邦譯, 98, 139—150頁)  
19) 拙稿、統制組織と問屋金融 (本誌、昭和15年9月號)。  
20) Schumpeter, Business Cycles, Vol. II, p. 639—43.  
21) 小島昌太郎、田杉競、金融機構と中小工業の將來性(山中篤太郎編、中小工業の將來性、217頁以下)。